〔事例報告〕

着地型フィールドワークを通じた大学間交流プロジェクト
―　着地側となる地方大学の視点から　―

長　崎　浩　介*

*日本文理大学経営経済学部経営経済学科

Inter-university Project through “Destination-oriented Fieldwork”
―From the Viewpoint of the University in the “Destination”―

Kosuke NAGASAKI*

*Department of Business and Economics, School of Business and Economics,
Nippon Bunri University

１．はじめに

2022年の大学の夏季休暇中，大分県内において，九州以外の地域の大学の学生が大分県内の各地域に入り，フィールドワーク及びグループワークを通じて地域の課題解決等に取り組む，「着地型フィールドワーク」(1)ともいうべき取組がいくつかみられた。

大分合同新聞（2022a，2022b，2022c，2022d）によると，2022年９月中，大分県内において，県外の大学が主催する大学生対象の「着地型フィールドワーク」が４件実施された（表１。本稿で紹介するものを含む。）。このほか同年８月には，大分県別府市内において民間企業が商店街活性化等をテーマとして大学生向けインターンシッププログラムを実施した例(2)もみられる。

大学生の着地型フィールドワークは，学生の成長への効果はもとより，交流人口の拡大による地域活性化及び観光振興への貢献が期待でき，「着地」である大分県及

表１　2022年９月に大分県内で実施された大学生の着地型フィールドワーク

大学（所在地）	活動地域	活動テーマ	参加人数
早稲田大学　（東京都）	別府市	「宇宙港」「ワーケーション」をテーマとして別府市の地域経済発展策を提案	14人
大手前大学　（兵庫県） 日本文理大学　（大分県）	大分市 別府市	学生目線での着地型観光プランを作成	27人
武蔵野美術大学（東京都）	速見郡日出町	日出町の魅力、課題を探り、観光や地域振興への活かし方を提案	7人
法政大学　（東京都）	杵築市	杵築市の食と観光をＰＲするプランを作成	20人

『大分合同新聞』掲載記事に基づき筆者作成。表の記載順は記事掲載日順

び県内市町村において今後有力な地域活性化策あるいは観光振興策となりうるものと考えられる。

このような動向の下，日本文理大学（大分県大分市。以下「本学」という。）は，関西の私立大学である大手前大学（兵庫県西宮市）と共同で，大分県の観光をテーマとした合同学生プロジェクト「関西の学生から見たおおいたの魅力と歩き方」（以下「合同プロジェクト」という。）を，2022年８月から12月にかけて実施した。このうち９月には，大分市及び別府市を活動エリアとして現地フィールドワークを実施した。

合同プロジェクトは，大手前大学の学生が大分市を訪問し，地元住民の立場でもある日本文理大学の学生と合同で，「関西（発地）在住の学生目線でおおいたの観光地としての魅力を発見する」ことをテーマとして大分市周辺において現地フィールドワークを行い，その成果を一般に向けて発表するとともに，関西地区において媒体（フリーペーパー）を通じて発信しようとするものである。表１に掲げた着地型フィールドワークのうち，大学間交流事業を兼ねて，着地側である大分県の大学の学生がプロジェクトに参加する方式で実施されたものは，このプロジェクトのみである。

本稿では，合同プロジェクトの実施内容を紹介するとともに，合同プロジェクトに参加した本学学生に対して実施した質問紙調査の結果をもとに，着地側フィールドワークを通じた大学間交流プロジェクトの着地側学生への効果及び運営上の課題について考察する。

なお，合同プロジェクトの運営は，大手前大学からは現代経営学部　坂元英毅准教授（公共経営）[3]及び同渡邉公章教授（観光学），本学においては筆者が担当した。また，大分市商工労働観光部おおいた魅力発信局上原秀雄参事補には，合同プロジェクト運営に多大なご協力をいただいた。本学人間力育成センターを始めとする本学関係部署にも，プロジェクト実現へ向けてご尽力いただいた。合同プロジェクト運営に関わっていただいたみなさんへ，ここに記して謝意を表する。

２．合同プロジェクトの実施概要

目的

合同プロジェクトは，本学学生と大手前大学の学生が合同で，ワークショップ及びフィールドワークを通じて「学生目線から見たおおいたのモデル観光プラン」を立案することにより，大分県の地域活性化及び観光振興の一助となるとともに，その活動自体を通じて他地域の大

表２　合同プロジェクトの全体スケジュール

実施日	活動内容	実施方法
2022年８月９日（火）	**合同プレミーティング（第１回）** グループ編成発表、学生顔合わせ、アイスブレイク フィールドワーク行動計画（観光プラン）作成ワークショップ	オンライン
（この間随時）	グループ別にフィールドワーク行動計画作成ワーク	
2022年９月５日（月）	**合同プレミーティング（第２回）** フィールドワーク行動計画作成ワークショップ	
2022年９月11日（日）	**合同現地ミーティング・フィールドワーク** 大分市内会場（本学施設）に集合、行動計画の最終チェックを受けた後、グループ別にフィールドワーク（観光プランを実体験）	現地
2022年９月28日（水）	**合同反省会** オンライン懇親会及び成果発表会に向けた準備開始	オンライン
（この間随時）	グループ別に発表会準備ワーク	
2022年10月29日（土） 11月６日（日）	**合同ワークショップ** 運営担当教員助言の下でグループ別に発表会準備ワーク	
（この間随時）	グループ別に発表会準備ワーク	
2022年12月17日（土）	**合同成果発表会** 各グループが立案した観光プランを発表（一般参加可）	

学の学生と交流を図るとともに，参加学生の合意形成能力やプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的として実施した。

参加学生及びグループ編成

本学からは，学生の正課外活動を支援する「人間力育成センター」を拠点として地域活動等に取り組む学生７人及び一般学生１人の計８人（１年生から４年生まで）が参加した。大手前大学からは，坂元准教授及び渡邉教授のゼミナールに所属する３年生及び４年生のうち希望者19人が参加した。

ワークショップ及び現地フィールドワークは，参加学生27人から４グループを編成し，グループごとに実施した。各グループは，大手前大学の学生４人ないし５人と本学学生２人で構成する両大学混成のグループとした。

全体スケジュール

合同プロジェクトの全体スケジュールを表２に示した。2022年９月11日のフィールドワークを核として，キックオフミーティング（８月），事前ミーティング（９月）及び事後ミーティング・ワークショップ（９月から11月まで）を配し，最後に，一般参加者を対象とした合同成果発表会（12月）をもって終了した。これらのプログラムは，フィールドワーク以外はすべてオンライン上で，ビデオ遠隔会議ツールをにより実施した。両大学の参加学生は，これらの「公式」プログラムのほか随時オンライン上で情報交換しながら，事前の観光プラン案の作成及び成果発表会のプレゼンテーション案の作成を進めた。

合同現地ミーティング・フィールドワーク（2022年９月11日）

合同現地ミーティング及びフィールドワークのタイムラインを表３に示した。大手前大学生は，フェリーさんふらわあが運航する神戸－大分航路（夜行便）を利用し，０泊３日の行程で大分へ来訪した。

午前８時，大分市街地中心部に所在する本学施設「日本文理大学エクステンションセンター」に両大学の学生が集合し，現地ミーティングを実施した（写真１）。両大学学生の（リアルでの）初顔合わせ，グループごとのフィールドワーク行動計画の確認の後，大分市役所上原氏による行動計画のチェックと助言を受けて，各グループとも順次フィールドワークへ出発した（写真２）。

フィールドワーク終了後，参加学生全員が大分港フェリーターミナルに集合。同所で解散式(写真３)を行い，本学学生は現地解散，大手前大学生は神戸行きフェリー

表３　合同現地ミーティング・フィールドワーク（2022年９月11日）のタイムライン

時　刻	活動内容	場　所
（９月10日夕）	大手前大学生、神戸港出発 フェリーさんふらわあ（神戸－大分航路）乗船	
午前７時	大手前大学生、大分港到着 合同ミーティング会場へ移動	
午前８時	本学学生集合　合同ミーティング開始 顔合わせ、フィールドワーク行動計画の最終確認後、 各グループが順次フィールドワークに出発	日本文理大学エクステンションセンター（大分市大手町）
午前９時	**フィールドワーク** グループごとに行動（教員の随伴なし）	**大分・別府市内**
午後５時30分	各グループ集合 合同現地ミーティング・フィールドワーク解散式	大分港フェリーターミナル
午後６時30分	本学学生、現地解散 大手前大学生、大分港出発 フェリーさんふらわあ（神戸－大分航路）乗船	
（９月12日朝）	大手前大学生、神戸港到着	

写真１　合同現地ミーティング

写真３　解散式

写真２　フィールドワーク実施状況
別府海浜砂場足湯（別府市）

に乗船して，当日のプログラムを終了した。

合同成果発表会（各グループの成果）

成果発表会は，2022年12月17日，オンライン上で一般にも公開する形で開催した。

成果発表会における各グループのプレゼンテーションの概要は表４のとおりである。これらは「関西の学生が夜行フェリーを利用し，０泊３日で大分市及び別府市を周遊する」という前提のもとで観光プランを作成し，実地調査を行ったものである。なお，現地における観光プランの行程は，すべて徒歩及び公共交通機関での移動を前提としたものである。

表４　合同成果発表会におけるプレゼンテーションの概要

グループ	発表タイトル	観光プラン（行程）
A	大学生ならではのゆっくり過ごせる旅行	大分駅前［発］－大分マリーンパレス水族館「うみたまご」－うみたまカフェ（昼食）－大分県立美術館OPAM－大分銀行赤レンガ館－トキハ（百貨店）・JRおおいたシティ「アミュプラザおおいた」－大分港［着］
B	美容と健康を求めてリラックス旅	大分駅前［発］－大分香りの博物館（別府市）－別府海浜砂場足湯（同）－豊後茶屋 別府駅前店（同・昼食）－大分マリーンパレス水族館「うみたまご」－ミントカフェ（大分港内）－大分港［着］
C	別府市弾丸旅	大分駅前［発］－大分香りの博物館（別府市）－甘味茶屋 別府店（同）－別府海浜砂場足湯（同）－豊後茶屋 別府駅前店（同・昼食）－別府国際コンベンションセンター「グローバルタワー」（同）－JRおおいたシティ「アミュプラザおおいた」－大分港［着］
D	別府市だけじゃない！大分市の魅力探しの旅！	大分駅前［発］－高崎山自然動物園－大分マリーンパレス水族館「うみたまご」－あんとれ（とり天・昼食）－府内城跡－大分市アートプラザ－JRおおいたシティ「アミュプラザおおいた」－大分港［着］

（注）行程のうち特記のないものは大分市内に所在

３．本学学生に対する質問紙調査の結果

2022年11月28日から12月１日までの間，合同プログラムに参加した本学学生８人を対象としてオンライン上のアンケートフォームを利用した質問紙調査を実施し，対象者全員から回答を得た。以下，（１）プロジェクトの運営に関することと，（２）本学学生の成長実感の２つの視点から結果を分析する。

プロジェクトの運営に関すること

ワークショップ，フィールドワークその他プロジェクトの運営に関する事項について５段階での評価を求めたところ，その結果は表５のとおりであった。このほか，表５の大問Ⅰ，Ⅱ，Ⅲごとに自由記述による回答を求めた。

大問Ⅰ「他地域の学生との合同プロジェクトについて」では，事前・事後のオンライン活動及び現地ワーク

表５　質問紙調査（プロジェクトの運営に関すること・５段階評価）の設問及び結果

設問			段階別回答数(n=8)					平均点
			⑤	④	③	②	①	
Ⅰ 他地域の学生との合同プロジェクトについて								3.34
	1	大手前大生との初顔合わせ（オンライン）のとき、同じグループの大手前大生と打ち解けることができましたか。	2	1	2	1	2	3.00
	2	現地フィールドワークの活動中、グループメンバーとの合意形成はうまくいきましたか。	1	4	2	0	1	3.50
	3	オンラインでのグループワーク（事前・事後）のとき、グループメンバーとの合意形成はうまくいきましたか。	2	2	1	3	0	3.37
	4	オンラインでのグループワークにはどの程度参加（出席）できましたか？	2	3	0	3	0	3.50
Ⅱ 活動テーマ「学生目線から見たおおいたのモデル観光プラン」について								4.31
	5	活動のテーマについて、活動開始前に関心を持つことができましたか。	4	3	1	0	0	4.37
	6	あなた自身、今回の活動を通じて「おおいたの魅力を再発見」することができましたか？	4	2	2	0	0	4.25
Ⅲ 合同プロジェクト全体の感想について								4.25
	7	合同プロジェクトへのあなたの満足度はどうでしたか？	4	2	1	1	0	4.12
	8	来年度以降、他地域の大学の学生との合同プロジェクト（今回のように他地域の大学の学生が大分に来訪するもの）があれば、あなたは参加したいですか？	4	3	1	0	0	4.37
	9	今回とは逆に、本学の学生が兵庫県を訪問し、大手前大学の学生と合同でグループワークやフィールドワークを行うプロジェクトがあれば、あなたは参加したいですか？	3	4	1	0	0	4.25

（注１）５段階評価の選択肢は、⑤を積極的、④をやや積極的、③を普通、②をやや消極的、①を消極的な回答として割り当てた。

（注２）設問ごとの平均点は、次の式により算出した（小数点以下２位未満切捨て）。

$$\text{平均点} = \frac{⑤の回答数\times5+④の回答数\times4+③の回答数\times3+②の回答数\times2+①の回答数\times1}{\text{回答者数合計(n=8)}}$$

ショップで意思疎通及び合意形成が円滑に行われたかどうかについて質問した。大問の平均点は3.34点（５点満点，最低点は１点）であり，他の大問の平均点と比較して低位にとどまった。特に設問１「最初のオンラインでの初顔合わせで打ち解けることができたかどうか」は，平均点が3.00点にとどまった。

５段階評価と同時に求めた自由記述回答においても，他大学の学生との交流を積極的に評価する意見がみられた一方で，オンラインでのグループワークにおける意思疎通及び合意形成の難しさを指摘する意見も多くみられた。また，オンラインでの活動の予定を合わせるのが難しかったとの意見もあった。

運営側としては，現地活動の前後にオンラインミーティングを開催するとともに，随時オンライン上での情報交換を促すことによりチームビルディング，意思疎通及び合意形成を促進する意図があったが，オンラインミーティングの活用方法等について課題を残した。

大問Ⅱ「活動テーマ「学生目線から見たおおいたのモデル観光プラン」について」は，合同プロジェクトのテーマとした「大分の観光」についての事前及び事後の関心について質問した。大問の平均点は4.31点であり，事前と事後の関心の差についても大きな差はみられなかった。本学学生にとっても関心を寄せやすいテーマ設定であったとみられる。

一方で，自由記述回答においては，テーマや対象とするエリア等をあらかじめ絞り込むべき，テーマに関して本学学生と大手前大学生との役割分担を事前に明確にすべきとの意見がみられた。活動のテーマを具体的な活動内容の設計へどのように落とし込むか，及び発地側学生と着地側学生の立場の違いを踏まえて双方の役割分担をどのように設定すべきかについて課題を残した。

大問Ⅲ「合同プロジェクト全体の感想について」では，プロジェクト全体の満足度及び今後同種のプロジェクトに参加したいかどうかについて質問した。大問の平均点は4.25点である。合同プロジェクト全体の満足度については，１件を除き積極的又は普通とする回答であった。また，今後同種のプロジェクト（他地域の大学の学生が大分に来訪するもの及び本学学生が兵庫県を訪問し大手前大学生と合同で活動するもの）へ参加する意思があるかどうかをたずねたところ，全員が積極的又は普通と回答した。

自由記述回答においては，「参加して良かった」「とても成長できた。何もないところから課題を見つけていく作業は大変だったが，先輩と一緒にすることでチームの大切さを知った」「コミュニケーションを高める活動としては一番鍛えられるプロジェクトと感じた」「自分が大分出身ではないため，事前に調べ，実際に行ってみて体感することで新しい魅力や観光の仕方を考える機会になった」等の積極的評価があった一方で，「本学学生の打合せの機会がもっと欲しかった」等の運営上の課題を指摘する意見もみられた。

本学学生への成長実感

合同プロジェクトにより着地側である本学学生にどのような効果があったかについて，経済産業省が2006年に提唱した「社会人基礎力」[4]概念に示される「３つの能力・12の能力要素」に従い成長実感をたずねたところ，その結果は表６のとおりであった。12の能力要素のうち10項目について，半数以上の学生が「特に成長できた」としており，合同プロジェクトを通じて学生に一定程度の成長実感があったと認められる。

４．むすび

大学生の着地型フィールドワークは，他地域との交流を通じた学生自身の成長に貢献するとともに，交流人口の拡大，地域住民と異なる視点によるアイデアの獲得などを通じて着地側地域の活性化につながる可能性がある。本稿で紹介した合同プロジェクトは，着地型フィールドワークに着地側大学の学生が参加する点において，大分県内において同時期に実施された他のプロジェクトにはない特色を有するものであった。

質問紙調査の結果からは，着地型フィールドワークに着地側学生が参加することについて，学生の成長実感の点において一定の効果が認められた一方，主に次の課題が示された。

オンラインミーティングの運営

遠隔地の大学が合同で活動というプロジェクトの性質上，現地活動の前後にオンラインでの活動を伴うことになるが，質問紙調査では，オンラインミーティングでの意思疎通や合意形成の難しさを指摘する意見が複数認められた。オンラインでの活動をより有効なものとするためには，その運営方法にはさらに配慮及び工夫が必要と考えられる。

着地側学生にとっての意義

「大分の観光」という同じテーマを共有していても，

表６　質問紙調査（本学学生への教育効果・社会人基礎力）の設問及び結果

［設問］このプロジェクトに参加して、自分が「特に」成長できたと思う点を、次から選んでください。（複数回答可。以下から１つ以上選択）			回答数（n=8）
	0	特になし	0
Ⅰ　前に踏み出す力（アクション）			
	1	物事に自ら進んで取り組む力（主体性）	4
	2	他人に働きかけ、巻き込む力（働きかけ力）	4
	3	目的を設定し、確実に行動する力（実行力）	5
Ⅱ　考え抜く力（シンキング）			
	4	現状を分析し、目的や課題を明らかにする力（課題発見力）	4
	5	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力（計画力）	4
	6	新しい価値を生み出す力（創造力）	2
Ⅲ　チームで働く力（チームワーク）			
	7	自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）	4
	8	相手の意見をていねいに聴く力（傾聴力）	5
	9	意見の違いや立場の違いを理解する力（柔軟性）	5
	10	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力（状況把握力）	4
	11	社会のルールや人との約束を守る力（規律性）	4
	12	ストレスに対応する力（ストレスコントロール力）	2

発地側と着地側ではテーマに対する目線が異なる。今回の合同プロジェクトでは，着地型フィールドワークに着地側の学生が参加することについて，「遠隔地の学生と大学間交流を図る」「地元の魅力を再発見する」点において一定の効果が認められたものの，目線の異なる双方の学生がそれぞれプロジェクトにどのように関わらせるかについては，より詳細な検討が必要と考えられる。

着地側学生が参加する着地型フィールドワークの実施に当たっては，これを単なる大学間交流や観光体験等にとどめず，着地側学生にとっての意義を明確にし，プロジェクト設計に具体的な形で落とし込む必要がある。

着地型フィールドワーク，共同作業を通じた大学間の学生交流はそれぞれ学生の成長にとって有用な取組と考えられるが，これを組み合わせた場合にどのような効果及び課題が生じうるかについて，今回の合同プロジェクトの実践を通じて明らかにした。本稿が，大学生の地域交流及び大学間交流の運営，指導及び支援等に携わる方の参考となれば幸いである。

注

（１）観光分野において「観光の目的地を「着地」とし，観光地（着地）側から観光情報を発信し観光客を迎える観光形態」を「着地型観光」という（才原（2015）p. 21）。これになぞらえて本稿では，他地域の大学の学生が「着地」である自地域へ入り，フィールドワーク等を通じて自地域の課題解決等に取り組むプロジェクトを指して「着地型フィールドワーク」という。

（２）大分合同新聞（2022e）。このプログラムは，全国各地でインターンシッププログラムを展開する東京都の民間事業者が主催し，全国各地から大学生22人が参加したという。

（３）2020年３月まで日本文理大学経営経済学部准教授

（４）社会人基礎力についての詳細は，経済産業省（2022）を参照されたい。

参考文献

才原清一郎（2015）「観光客視点からの着地型観光の課題の考察」『日本国際観光学会論文集』第22号，2015年３月

大分合同新聞（2022a）「別府経済の発展策提案／「宇宙港」などテーマに早大生」『大分合同新聞』2022年９月13日

大分合同新聞（2022b）「学生目線の観光プラン／大分・別府地域の魅力紹介／日本文理大と兵庫の学生／関西でPRへ」『大分合同新聞』2022年９月14日

大分合同新聞（2022c）「日出の振興東京の学生が探る／７人滞在「理解深める」」『大分合同新聞』2022年９月17日

大分合同新聞（2022d）「法政大生杵築PRへ／ハモ，城下町…誘客プラン練る／観光，水産業者に聞き取り」『大分合同新聞』2022年９月27日

大分合同新聞（2022e）「学生の知恵で商店街に元気／別府・亀川で新商品開発などに挑戦／全国各地から22人が参加」『大分合同新聞』2022年８月13日

経済産業省（2022）「社会人基礎力」
https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/
2022年12月12日閲覧

（2022年12月20日受理）